

## 会 議 録

|                      |   |                              |
|----------------------|---|------------------------------|
| 会議の名称                | 第3回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会   |                              |
| 開催日時                 | 令和5年12月21日（木）10時00分～12時00分  |                              |
| 開催場所                 | 宍粟市役所本庁舎402・403会議室 又は リモートによる開催   |                              |
| 議長（委員長・会長）氏名         | 林 昌彦  |                              |
| 委員氏名                 | （出席者）<br>林 昌彦、石原政司、喜多和美、村上晃宏、西山大作、若林孝典、中林久美子、山國和志   | （欠席者）<br>谷笹摩弥、岡本一也、西川彩児、坂本幸子 |
| 事務局氏名                | 市長公室：水口公室長、三木次長<br>市長公室地域創生課：西嶋課長<br>市長公室秘書政策課：西川課長、木村副課長、上月係長<br>総務部広報情報課：平瀬係長<br>宍粟市DX推進アドバイザー：officeYAMASHITA 山下太一 |                              |
| 傍聴人数                 | 傍聴者なし   |                              |
| 会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開  | （非公開の理由）                     |
| 決定事項                 | 協議事項<br>（1）第2次地域創生総合戦略（DX版）の策定について  |                              |
| 会議経過                 | 別紙のとおり  |                              |
| 会議資料等                | 別紙のとおり  |                              |
| 議事録の確認               | （委員長等）<br>_____<br>委員長 林 昌彦   |                              |

(会議の経過)

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
| 委員長 | <p>■開会</p> <p>■協議事項（進行：委員長）</p> <p>前回は、重点戦略の四つのうちの【住む】と【働く】という二項目について協議した。今日は残りの二つ、【産み育てる】【まちの魅力】の協議になる。四つの戦略項目は相互に関係があるため、本日の協議の中で、【住む】【働く】の項目に関連づけて議論が深まればよいかと思っている。</p> <p>配付資料の確認について。資料の①-2、①-3という二つの資料が追加された。①-2「三つの柱」という資料だが、お手元の資料①の3ページに、「三つの柱」という言葉出てくる。「デジタル基盤の整備等」、「デジタル人材の育成・確保」、そして「誰一人取り残されたための取組」というものが既に資料として出ているが、このたび配付されたこの資料①-2とは、どういう関係になるのか。資料の差替えということか。</p> |
| 事務局 | <p>資料①-2については差替えではありません。地域創生を進めるためのDXの三つの柱ということで、委員にはこの視点を持って、DXの推進について御協議いただいているところだが、総論的な方向性、まとめが現在お示ししている素案の中では見えにくいという御意見やアドバイスをいただいている。この資料については素案に追加したいと考えているもの。</p> <p>本日議論いただく、子育て分野「産み育てる」、「まちの魅力」の各基本施策や個別施策については資料①の18ページまで記載しているが、事務局では追加資料として追加させていただきたいと考えている。協議のなかで説明させていただきたい。</p>   |
| 委員長 | <p>承知した。続いて、資料①-3について。この戦略については、DXということで、デジタル等の専門用語が多く出てくる。そのため、資料①-3にあるような解説が必要かと考えている。この資料についても、この状態で完成しているということか。それともこれから委員の皆さんから御意見いただければ、追加要望による追加が可能か。</p>   |
| 事務局 | <p>資料①-3についても、参考として追加想定をしている。この戦略案についてはデジタル分野の専門用語や、アルファベット、片仮名用語が多いため、広く市民の皆様にご覧いただくためにも、丁寧な形で用語解説文をつけさせていただきたいと考えている。</p> <p>また、デジタル用語だけではなく、行政用語など分かりにくい言葉が他にもあるというご意見をいただければ、追加させていただきたいと考えて</p>   |

| 発言者 | 議題・発言内容   |
|-----|---|
| 委員長 | <p>いる。</p> <p>素案資料に追加として、これらの資料を事前にいただいているので、本日の委員会において御意見のある方がいらっしゃいましたら、この追加の資料についても触れていただければと思う。</p> <p>協議に入る。</p> <p>重点戦略の3【産み育てる】という柱から議論を進める。委員会に先駆けて、事前に御意見いただいている委員や、検討資料を追加いただいた委員がいらっしゃるのので、順次、説明と御発言いただければと思う。まずは、事務局のほうから説明をお願いしたい。</p> <p>(1) 第2次地域創生総合戦略(DX版)の策定について説明<br/>(資料①【産み育てる】)(資料③【委員会事前提出意見】)</p> |
| 委員  | <p>DXに特化したことではないが現状をお聞きしたい。七、八年ほど前になると思うが、いわゆる待機児童問題で「保育所落ちた。日本死ぬ」という言葉が全国的に注目された。この発言により、待機児童問題の解消につながったというようなことがあったと記憶している。現在の全国的な状況とあわせ、宍粟市内でいわゆる待機児童問題、保育所や認定こども園、それから学童など、市内の需要と供給状況が分かるようなら教えていただきたい。</p>   |
| 事務局 | <p>委員からご発言いただいた事案の発生した当時と現在の双方において、宍粟市では待機児童はないと把握している。年度途中に入所を希望されるタイミングでは、定員の関係でご家庭の希望どおりの園所に入所がかなわないというケースはあるが、市内の他園所においては受け入れが可能であり、極力ご希望に添えるようマッチングを随時行っている。</p>   |
| 委員  | <p>ファミリーサポート制度について。「おねがい会員」や「まかせて会員」など、どのくらい的人数が登録されているのか。</p>  |
| 事務局 | <p>会員については、それぞれ旧町域ごとの単位(山崎・一宮・波賀・千種)で、それぞれ登録していただいている。依頼する側の「おねがい会員」は合計で121人、援助する側の「まかせて会員」は合計120人。「どちらも会員」は14人。割合では、山崎町域の委員が全体の半分強を占めているという状態である。</p>  |

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
| 委員  | 例えば、全体の分母はいかがか。「おねがい会員」は、市内全体の分母から何%ぐらいになるのか。  |
| 事務局 | 一宮・波賀・千種の3町域については、「まかせて会員」のほうが「おねがい会員」の倍ほど登録されている。ただ山崎町域については「おねがい会員」の登録が多く、「おねがい会員」が100人、「まかせて会員」が70人となっている。                                  |
| 委員  | 山崎町域については、需要に対して供給が足りていない。何かしら周知不足等要因は考えられるか。  |
| 事務局 | 若い方全体の数が、山崎町域に多いという理由は考えられる。また、周知不足もあると思われる。お願いする側の子育て世帯に対しては、制度や事業のお知らせをガイドブックやチラシ、子育てアプリ等でお知らせできているが、受け手側の「まかせて会員」についての周知は十分にできていない状況だと思われる。 |
| 委員  | 私も「ファミリーサポート会員募集」のようなお知らせを広報紙などでは見たことがないと思う。基本的には、仕事などを引退された方々が、まかせて会員になるのか。   |
| 事務局 | そのように聞いている。また「おねがい会員」として、制度を利用されている若い方でも、自分がお世話になったお返しにと、仕事以外の時間を活用して協力できる場所について活動できるよう登録をしてくださっている方もいらっしゃると思っている。                             |
| 委員  | なるほど。「まかせて会員」を担うことができやすい年齢層を考えると、デジタルツールを利用した周知方法は少しミスマッチになりそうに感じる。そのあたりが課題だと思うが、私自身も適した周知方法については見つけられていないので考えてみたい。                            |
| 委員長 | 関連で他にご意見はないか。  |
| 委員  | 「おねがい会員」の方が121名ということだが、お願いされる方の対象のお子さんはおひとりか。例えば兄弟がいるなどはあるか。   |
| 事務局 | 子どもの数で登録制限はしていない。兄弟姉妹など複数人の登録は可能。  |

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
| 委員  | 例えば、保育所や幼稚園など子どもの施設にこのような制度があるという案内はしているか。   |
| 事務局 | 施設への制度案内や、子育てガイドブック等については、例えば出産や保育所・幼稚園に入園するなど生活環境が変わるタイミングにあわせ、お知らせさせていただいている。  |
| 委員  | 子どもが生活する場所や集う場所、例えば小児科医院なども含めた場所で案内をすると、効果が上がると思われる。この宍粟市のファミリーサポートの取組みと同じような仕組みを持っている他の自治体はあるのか。  |
| 事務局 | はい。他の自治体にもある全国的な取組である。   |
| 委員  | 廉価でとてもいい制度だなと思っている。利用される親御さんには、急に朝に子どもが熱を出して、大慌てで誰か預かってくれる人を探したいというようなケースがあると思う。そういう場合においても、サポートセンターは8時半に始業開始なので、お願いできる人が見つかってから預けられるまでにかかる時間はどの程度要するのか。   |
| 事務局 | コーディネーターによるマッチングにどの程度時間がかかるかということころまでは、把握できていない。緊急時の対応については、コーディネーターができる限りの手段で進めていると考えられるが、十分に対応ができないケースもあると思われる。宍粟市では、急な病気などで子どもを預かってほしいという場合、病児病後児保育の事業を活用いただくことができる。資料提供している子育てガイドブックの31ページに掲載しているが、急な病気などで集団生活ができない状態などで、急にお休みさせさせなければいけないが、保護者がお仕事などで、家庭での看護ができない場合にご利用いただける保育制度を設けている。 |
| 委員  | 事前質問に対する回答の中で、利用対象の人数が少ないので、システムの導入などシステム化に対する経費をかけにくいとの説明があった。マッチングについてもなるべく安価な方法で、例えばSNSを利用した調整ができる仕組みができ、時間外でも対応可能になればよりよいと思う。  |
| 事務局 | ファミリーサポート制度の利用については、まず初めての利用申請をされると「おねがい会員」と「まかせて会員」にお声がけし、コーディネーターが同席した形で、このお子さんを預かってくださいねというような「顔  |

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
| 委員長 | <p>合わせ」の場を設ける流れになっている。2回目以降の利用についてはそれぞれの依頼を通して、お互いの理解を深めていく。基本的には、Aさんの見守りはBさんがするというように、固定するケースが多い。例えばAさんを見守ってほしい時に、Bさんが見たり、CさんやDさんが見たりというケースはほとんどない。緊急の依頼の場合においても、そのBさんが受け入れ可能であれば、対応できる場合もある。制度の利用については、まず顔合わせの場が必要であり、病気のお子さんを初めて預かるということはかなり負担があるため、対応は難しいと考えている。</p> <p>関連して伺いたい。手元の資料の利用のしおりに説明があるが、「おねがい会員」と「まかせて会員」のマッチングについては、それぞれがどういうことをお願いしたいのかということと、そのニーズに応えられる人がどこにいるかということを経理局が調整されていると思う。この事務局への依頼方法は、2ページの図で見ると電話を利用することになっている。</p> <p>例えば、依頼情報自体をデータとして持っている、非常に分かりやすいと思われる。また、事前質問くださった委員がサンプルとして「援助活動報告書」の様式を提供されている。これは手続きとしてサポートセンターの事務局に提出されるものだと思うが、事務局はこういった報告書をどのように管理しておられるのか。</p> <p>最近では企業においてもインボイス対応など情報を電子的に管理している状況がある。もちろん個人情報問題等はあると思われるが、例えばこういった活動実績を集計するというようなことを考えると、デジタル化することにより事務局の作業負担も非常に軽減されると思われる。</p> <p>トータルとして、負担軽減できるということであれば、コストをかけても十分、メリットがあると思う。事務局にどれぐらいの人数と労力をかけているのかということを見ると、デジタル化を検討する余地があるのではないかと感じた。</p> <p>まず、それぞれの「おねがい会員」と「まかせて会員」から、どういう形で依頼が入り、その依頼を事務局がどのように管理して、そしてマッチングをして、そのあとの事後的な報告や実績の管理というところをデジタル化できれば、大変メリットがあるでしょうし、同様のサービスにおいても導入を進められるのではないかと考えるが、いかがか。</p> |
| 事務局 | <p>「おねがい会員」が初めて依頼される際は、お子さんを預けられるということで不安に思われているケースが多い。コーディネーターと顔を合わせることで安心されるという面もある。また、「まかせて会員」とのマッチングにおいては、登録のある「まかせて会員」ではマッチしないケースがほとんどであり、一件ずつコーディネートが必要な状況である。「おねがい</p>  |

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
|     | <p>会員」がひとつ依頼されるごとに、コーディネーターが「まかせて会員」を探すというステップがほとんどのケースで生じるため、地域の自治会長や民生委員などに当たって、何とかマッチさせているというのが組織の実態である。</p> <p>その後の手続きなどについては、委員のご意見のとおり電子化できるところを担当において精査しながら、検討を進めていきたいと考える。</p>   |
| 委員長 | <p>活動報告書を提出された後の管理や、恐らく年間の実績数の把握などを行っていると思うが、その際にデジタル化されたデータの活用をすすめるということは考えられないか。</p>   |
| 事務局 | <p>現状としては、活動報告書は紙ベースで市に報告書として提出いただいている。事務局では活動内容の確認を行い、数字についてはデータ転記して管理しているが、その後の報告書管理は紙ベースで保管というアナログな形になっている。</p>   |
| 委員長 | <p>コロナ禍であった2年ほど前を思い出すと、医療機関からの報告がファックス送信で行われており、報告するほうも受けるほうも、そこから集計をするという作業が非常に大変で、保健所などでは大変御苦労されたということがあった。サービス提供に伴う事務作業を極力軽減して、本来提供すべきサービスに掛ける時間や能力を確保していくのかということが、働いている方々の労働条件や働き方の見直しということも含め、改革していかなければならない課題である。これ以外にも、様々な報告を、従来紙ベースで行うことは当たり前だと思っていたと思うが、それが何かあったときに大変な負担になり、過重労働を引き起こすということを、私たちはもう経験したので、それでもサービスが停滞するという事をここで解決しなければいけないと感じている。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。ご意見のとおり、デジタル化を含めた事務の効率化を図ることが、「おねがい会員」「まかせて会員」をしてコーディネートする職員の三方にプラスになると思われる。現在、事務局では専門員がコーディネート業務を担っているが、その専門員のあり方や効率化を図ることが、これから効率化をどう図るかという視点で事務調整を行いたいと考える。</p>   |
| 委員長 | <p>他にご意見のある委員は。</p>  |
| 委員  | <p>私はファミリーサポートの「まかせて会員」に登録して活動しているが、</p>   |

| 発言者 | 議題・発言内容   |
|-----|---|
|     | <p>市外に居住していたときからずっと活動を続けている。以前は大阪で活動をしてきたが、大阪でも報告書は紙ベースだった。依頼を受ける初回は、やはりコーディネーターさんと一緒に、面接でマッチングできるかどうかお話しさせてもらい、現在は、山崎町で「まかせて会員」をしているが、マッチングがなかなかうまくできない現状がある。地理的な距離の課題や、希望の時間が合わないことが理由としては多いと思う。また、「まかせて会員」の登録数自体も少なくなっていると感じている。先ほど委員が提案された小児科医院などに協力を依頼しチラシ置くなどの周知方法については、先日、コーディネーターに提案もさせてもらっている。依頼される「おねがい会員」については、妊娠中や出産後にこのような制度があることを知る機会があると思うが、「まかせて会員」については知られていない現状がある。私も友人に「まかせて会員」が少ないという話をしてみたが、賃金的な部分に対する否定的な意見が多かった。有償ボランティアだという認識でいたので、私は意識していなかったが、大阪では、1時間が800円で30分が400円だった。宍粟市に関しては、30分250円という設定であり、友人に声をかけてもやはり賃金的に安価だという思いを持たれる人が多いと感じている。「まかせて会員」の不足が一番の課題になっていると感じている。</p> |
| 委員長 | <p>デジタル化すれば全て解決するわけではないので、いろいろと制度の見直しなどもあわせて進めていただきたいと思います。続いて、ファミリーサポート以外についてもご意見はないか。</p>   |
| 委員  | <p>例えば、私たちの日常でも Google フォームでデータを共有したり、そのデータに書き込んで他のところに送信したり、割と簡単に操作することができたり、活用の場面が増えている。一般の利用者の方々にも広めるということで、例えば、市独自でそういうアプリを作れないかと思う。担当の方に負担がかかると思うが、ノーコードで手軽に作れるソフトがないかなどを検討されてはいかがかと思う。</p>  |
| 事務局 | <p>仕組みとしては実行可能だと考えている。ノーコード、ローコードといったものは、クラウドサービスにて提供されているものがほとんどで、システム事業者が提供されているものを、必要数のみ使用料を払って利用するという形式となる。テレビCMなどでも紹介されているシステムが有名だと思われるが、今後は住民サービスの利便性向上や行政内部事務の効率化を含めた研究を行い、取り入れられるサービスがマッチすれば運用という形につなげていきたい。まず、現状の制度運用状況を確認し、適しているサービスやシステムを研究していくところから進めていく。</p>   |

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
| 委員長 | <p>他にあれば順次ご発言をお願いします。</p>  |
| 委員  | <p>私もこのファミリーサポートという制度自体をあまり知らなかった。周知をどれぐらいされているのか。他にも同様に人を募集しているものがあると思う。例えば、学校の「見守り隊」については新学期が4月に始まることから、1～2月に自治会等に対してお知らせをいただいている。こういったボランティア募集は、時期を考えた広報や通年でのお知らせをしていくことが必要だと考える。私も自治会長を務めた経験があるが、ボランティアで活動いただいている前任者が急な都合でやめられた場合や、任期満了などで後任を探す必要がある場合に、その役割はどんなことをするのかというところからの説明が必要となるので、困ってしまう。民生委員のような広く知られているものはよいが、「見守り隊」や「サポート会員」と聞いても知らない市民が多いと感じている。やはり通年でのお知らせや周知活動が必要だと考える。また、「こういう年代の方にお手伝いをお願いしたい」というものについては、その年代などに合わせた広報ツールを用いた周知が必要だと思う。ホームページで出すことは必要だが、リタイアされた方や高齢になると、あまりホームページをよく見ているという人は少ないのではと感じている。広報紙や折り込みを利用することも検討いただきたい。この制度周知に限らず、平時から市民が情報に接することで、必要な人がつながることができる環境を整えればよいと思う。</p> |
| 委員  | <p>別件でお聞きしたい。資料①の16ページに「オンライン講演会の開催」と記載されている。よく広報紙などで拝見させてもらうが、市では生涯学習としておもしろそうな講演会や宍粟学講座などが開かれている。しかし、開催場所が市役所であったり、宍粟防災センターであったりと、講師や会場の都合だと思われるが山崎での開催が多いと感じている。なかなか波賀や千種の住民の方には参加しづらいところがあると思うので、例えば、会場をオンラインでつなぎ、千種の市民協働センターや、波賀の市民局で開催することもいいなと思っている。新たに職員配置が必要になるなど、いろいろと課題があるかもしれないが、そういった市民が参加しやすい方法も考えてみるのもいいと思う。</p> <p>また、15ページには教育関係のICT化など記載されている。今教員不足ということが全国的な課題になりつつあると感じており、先日、とある中学校の教頭先生とお話しした際に、教頭先生が美術の教科を教えているとお聞きした。市ではきちんと加配対応などされていると先生からもお聞きしたが、これからどんどん教員不足という課題は現実的になってくると思っている。実現できるかどうか分からないが、オンライン授業で市内の小</p>   |

| 発言者 | 議題・発言内容   |
|-----|---|
| 委員長 | <p>中学校全校が一緒に授業できるなど、そういった取り組みについても将来を見据えて研究していくことも必要ではと感じている。</p> <p>学校や、もっと対象を広げた市民の方との交流の手段として、もちろん対面方式も非常に貴重な機会だとは思いますが、オンラインで交流をしていくこと、学校であればもっと遠方の子どもたち同士の交流もあり得ると思う。宍粟市内での交流というのもオンラインであれば構築できると思う。</p> <p>また、オンライン環境を活用する場合には、セキュリティ問題への対応も必要となる。個人情報流出という問題もあり、大学でも、例えばメールの誤送信による個人情報の流出などリスクを防止するため、安全なシステムへの移行などが進んでいる。そういったことを考えると、子どもたちのサイバー空間での安全性、個人情報を守るということも同時に考えながら交流を進めていく必要がある。子どもの数も少なくなってくるため、教育上の効果を考えながら実施していく必要があるかと思われる。</p>          |
| 委員長 | <p>続いて、定住促進重点項目の四つ目【まちの魅力】の説明を事務局からお願いします。</p>  |
| 事務局 | <p>(資料①【まちの魅力】)(資料③【委員会事前提出意見】)について説明併せて、画面共有により「しそ森林王国観光協会」のホームページを閲覧。多言語対応状況等を確認。</p>   |
| 委員長 | <p>事前質問いただいた委員よりご意見を伺いたい。</p>   |
| 委員  | <p>ホームページについては理解した。観光客が団体で宍粟へ来られて場合に、例えば大型バスで飲食ができるようなところが町内にあまりない。私が覚えているのは、かつては山崎インターチェンジの南側、国道沿いにドライブインのような施設があり、そんなに広いところではなかったが、大型バスが入り、50～100人ぐらいの団体客が飲食していた記憶がある。</p> <p>そのような施設が町内にあれば良いと思う。11月に町内で「もみじまつり」があったときなど、大型のバスでお客さんが来られていたが、どこで食事されたのか。酒蔵通りにて酒蔵が飲食店を営業されているが、団体が入るようなスペースではないので、私も知り合いが団体で来られたときには、どこへ行こうかとよく迷う。人口が3万4000か5000ほどの市であれば、もう少し大きな施設があれば、素通りせずに食事やお土産が買える。そういう施設があればと期待する。外国からお越しの方、特に東アジア、東南アジアの方もたくさん来られるかと思うので、団体で来た場合に対処</p> |

| 発言者 | 議題・発言内容   |
|-----|---|
|     | <p>できるような、施設などがあればと思う。</p> <p>多言語化されているホームページは私も把握していなかった。インドネシア語など特殊な言語まで対応されていたので、今後例えばインドネシアの人が来られた時には、インドネシア語で意見されたコメントをインドネシアの人が見られるように。また、中国語は簡体字と繁体字の二つに対応されている。中国や台湾の人が来られた際にも、対応された言語で「ここがいいよ」というコメントを見ていただけるようなホームページになり、どんどんコメントが増えていけばいいと思う。</p>  |
| 委員長 | <p>ありがとうございます。では、他の委員の方からご意見はないか。</p>   |
| 委員  | <p>【まちの魅力】まちづくり、インバウンドの獲得に関連してお聞きしたい。インバウンドを狙うという話になると、宍粟市だけで行うのは、少しイメージが違うと思う。もう少し広域で考え、インバウンドの獲得を狙う戦略が必要になるのではないか。その中で、他の自治体と連携を図っていくことが Plus DX として掲げられているが、これはどういったことをお考えなのか。</p>   |
| 事務局 | <p>現在、姫路市を中心に 8 市 8 町の中核連携都市圏、また、たつの市を中心とした、宍粟、佐用、上郡といった播磨定住自立圏の枠組みがある。</p> <p>事例としては、8 市 8 町の中では特にお酒の文化が共通しているので、播磨の魅力をもっと PR するために、お酒を通じた PR 活動をしている。例えば、今年の 3 月に市内商業施設で、それぞれの市町の特産品やパンフレットを紹介するなどのフェアを実施した。播磨圏域内の複数施設において同様の取り組みを実施するなど連携しながらの事業展開を行っている。</p> <p>また、姫路市と交流の中では、姫路から宍粟市まで距離があるので、その移動にかかる距離の部分、一定姫路市の了解のもと宍粟市まで足を伸ばされた場合には、交通費の支援を今年度当初にさせていただいている。そういった距離的なところを埋めることや、委員にご意見いただいたように、単独の自治体で、満足いく一泊二日の観光コース設定を行うことは非常に難しい状況である。近隣自治体との連携が重要になってくると考えている。まだ連携は十分ではないが、酒造り文化を通じた活動から取り組みを初めているところ。</p> |
| 委員  | <p>Plus DX という部分ではどういった取組がされているか。</p>   |
| 事務局 | <p>広域的な取組みについて、例えば外国の方に播磨圏域の情報発信を行う取組みなどについては、連携がとれている状況ではないので課題だと考え</p>  |

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
| 委員長 | <p>ている。各自治体ではそれぞれ取組みをされているが、連携したデジタルを活用した情報発信は、これからの課題だと認識している。</p> <p>今の点は、手元の資料①17 ページの基本施策の4「観光振興」に該当する。「発酵」の取組については①-3。また④-1にも「日本酒発祥の地」とのキーワードがあり、④-1の最後に「総合的戦略的な観光プロモーションを展開します」とあるのがDXによる推進ではないか。</p> <p>当委員会では、総合計画や地域創生戦略を踏まえて、そこに Plus DX の視点を追加することによって、より促進しようという趣旨で進めている。観光についても④-1に記載している総合的戦略的な観光プロモーションについても、その促進手段として Plus DX を位置づける関係がある。そういう意味では、観光戦略がどうなっているのかを事務局からお話いただき、その中で広域の連携をどう位置づけているのかを説明していただけないか。</p>   |
| 事務局 | <p>次の委員会において、今年度改訂した第3次観光基本計画について紹介させていただきたい。その中で、戦略的な方針を踏まえ、具体的にデジタルも活用した方向性が説明できればと思う。</p>   |
| 委員長 | <p>先ほどは観光という観点から「外への情報発信」という側面でご意見いただいた。もう一方では、市民の皆さんにこの地元の魅力を理解していただいて、一緒に情報発信をしていくことが必要ではないかと思う。</p> <p>18 ページに景観の保全の項目がある。人口が減少することによって、森林環境にマイナスの影響を与えることにもなってくると考えられるが、こちらに2か所 Plus DX の印がついている。②-2が、古民家の再生や保存、それから商店街のにぎわいの創出。こういう部分を通じて町並み景観の保全を図るという。この部分については、市民の皆さんが自分たちのこの地元の景観の魅力を理解していただく必要があるかと思う。</p> <p>その点で言うと、③-1で、教育や生涯学習を通じて、自然環境の大切さを学んでいくという、この学びに関して Plus DX がついている。</p> <p>繰り返しになるが、こちらは外部への発信というよりは、市内で市民の皆さんに理解をしていただくことが必要となる。プロモーションは、外部と内部と両側面があるので、市内での理解、地元の魅力の理解ということで、Plus DX についてどう進められるのか説明をお願いしたい。</p> |
| 事務局 | <p>具体的な取組みを紹介したい。宍粟市では豊かな自然が四季折々にあり、地域の皆様の生活の営み、そして歴史や文化もあわせて、一つの「風景」ととらえ、日本一の風景街道をつくっていく取組みを行っている。その中</p>   |

| 発言者 | 議題・発言内容   |
|-----|---|
| 委員長 | <p>で、市民の皆さんから、地域の誇れる文化、自慢の地域の風景を紹介いただくとうと、広く写真などデジタルデータの募集を行い、ホームページやSNSをはじめとする媒体で知っていただく取組みを進めている。宍粟市は4町域の非常に広い行政面積を持つため、まだまだ市民の皆さんが他の町域の素晴らしいところを御存じではないところも多い。そういう市民の誇れる町を自慢していただくとうと推進をしているところ。</p> <p>先ほどの説明について、どのぐらいの発信ができているのか。実績が分かれば教えていただきたい。</p> <p>(市の公式サイトで「風景街道」を検索。画面共有)</p>  |
| 事務局 | <p>今画面に表示しているのが、各市民から誇れる風景等々、ホームページに投稿いただいたものを紹介している。</p> <p>今、アップロードしている添付のファイルだけで、50～60 程度投稿いただいている状況。</p>  |
| 委員長 | <p>このホームページに掲載されている情報の存在について、市民の皆さんはどのぐらい御存じか。</p>  |
| 事務局 | <p>これは、あくまで今ホームページ上でお示ししているものであり、周知としては、しそチャンネルのトピックスの動画の中で、ニュースの間に毎回何コマずつか入れて、動画と音声による案内で「宍粟市のいいところ」を逐次紹介している。また、今月からは、「デジタル風景展」という取組を開始している。モニターに画像と音声を入れながら、市内の庁舎等を巡回することにより紹介している。</p> <p>この取組は、継続しての長い取組になるので、おおむね3年間程度で、いろいろな素材を市民の皆さんから投稿いただき、今後はデジタルデータを地図上に落とし込みながら、「宍粟市にはこのように素晴らしい風景がある」ということを、実際に面的に見せていきたいというところまでつなげたいと思っている。今年度、取組が始まったということを紹介させていただいた。</p> |
| 委員長 | <p>他の委員からはご意見ないか。</p>   |
| 委員  | <p>先ほどから観光の関係でいろいろ意見があったが、県民局としては、西播磨管内の7市町の観光部署と一緒に、「西播磨ツーリズム振興協議会」を立ち上げており、その中でホームページの運営や、SNSの発信等々をし</p>  |

| 発言者 | 議題・発言内容   |
|-----|---|
|     | <p>ているところ。各市町それぞれ工夫を凝らした観光のサイトを立ち上げていらっしゃるが、いかに見てもらうかが一番難しい。各市町、動画も凝っていて素晴らしいものがたくさんあるが、いかに情報にたどり着いてもらうかが非常に難しいと感じている。</p> <p>県としては、一つ一つの市町の魅力をまとめて発信できるような、西播磨の地域としての大きなくくりでやっていきたいという思いから、長年「西播磨遊記」というホームページを運営しているが、それも十分機能が果たせないところもある。</p> <p>県においては、今後万博の開催に関連し、これを機にフィールドパビリオンということで、市町の魅力ある観光素材などを出してもらい、県で大々的にPRすることで、複数メディアやSNS、ホームページなどの情報発信ツールを活用し、宍粟市の魅力を一緒に世界発信につなげていければ良いと思っている。今年、県民局では、フィールドパビリオンで使えるよう、西播磨地域を全て網羅したようなコンテンツを作成するため、令和6年に予算を確保しているので、連携して、DX化やインバウンド対応につなげていければと考えている。</p> |
| 委員長 | <p>例えば観光協会のホームページや、宍粟市が情報発信しているサイト、他の市町の同じ様な情報発信のサイト等と相互リンクを結ぶようなことをされているのか。</p>  |
| 委員  | <p>「西播磨遊記」で相互リンクをしている。四半期ごとに情報誌を出しており、各市町トータルしたものをホームページにおいてもデジタル化して掲載している。</p>   |
| 委員長 | <p>県民局においても取組まれているが、各市町のサイトや観光協会がそれぞれ相互にリンクを貼ることはあるのか。</p>  |
| 委員  | <p>はい。各関係団体と相互にリンクをしている。</p>  |
| 委員長 | <p>観光協会からのご意見はいかがか。</p>   |
| 委員  | <p>先ほどから様々な意見いただいた。意見いただいたことを踏まえても、DXを利用した情報発信については、観光協会のホームページが一番DX推進、デジタルでの情報をタイムリーに活用した情報発信をしているのではないかと思っている。例えば、もみじまつりであれば今日の紅葉の情報や、50名山登山の案内では、トラブル情報などもタイムリーにホームページに情報を発信できるよう、努めて毎日、何らかのホームページ更新がで</p>   |

| 発言者 | 議題・発言内容  |
|-----|--|
|     | <p>きているよう心がけている。</p> <p>ただ、前回委員会において非常に議論になったが、デジタルかアナログか、誰一人取り残さないということの論点においては、それは永遠のテーマになってこようかと思う。広域連携やインバウンドの話もあったが、総合計画にあるように、基本的な結論は「選ばれる」というところに尽きると思う。どのようにして選ばれるか。例えばツアーを組んでいくのか、どのように選ばれる商品を見せるのかである。資源については、今まで風景街道であったり、フォトコンテストだったりいろんな単体の魅力はたくさん情報発信している。それは逆に言えば簡単に取り組むことができるコンテンツだと考えている。</p> <p>昨日、大阪万博の関係で、特に東南アジアの旅行会社を中心に15人ほど中小の旅行会社の方が観光協会にお越しになり、国見の森やセラピー、電動バイクなどいろんな魅力の発信を紹介した。それは単体の商品を紹介するだけであって、例えば東南アジアからの観光客は何をターゲットにこられるのか、その把握は追いついていないと思っている。</p> <p>あわせて、森林セラピーも誰をターゲットに商品売り込むのか、男性と女性だったら、はるかに女性の関心度が高く、男性は余り関心がない。また、セラピー単体でお客さんが来て満足して帰られることはないこともわかってきた。セラピーは午前中に体験し、午後には何かプラスアルファのコンテンツを体験し、一日満足して帰っていただくこと。特に午後からは市内の経済循環につながるようなものを設定していくなど、ターゲットによって選ばれるまちづくりをどのように魅力的に発信していけるのか。この課題が今、非常に大きな課題であり、非常にやりがいのあるポジションだと思っている。</p> <p>また、自然保護の関係では、今年の夏に観光事業者発行の冊子「市内の魅力発信」を市内全世帯に配布した。冊子のトップには、「関西の奥入瀬」とあり、これは「奥入瀬」を使っていいとご当地のお墨つきの下承を得て、使っているものだが、その「奥入瀬」というフレーズを使ったことの効果は、今後どのように魅力をプラスアルファしていくのかに関わってくる。</p> <p>市外の人が宍粟市を見る目線と、市内の人が宍粟市を見る時では「魅力」の感じ方が全く違う。市内の人には当たり前前の風景が、市外の人にとってはすごい魅力となる。</p> <p>また、市外からお越しになった人が魅力を感じるものとしてよく言われることは、市内で活動しているイベント等スタッフやまちの人がどれだけ楽しい顔をして、自らが楽しんでいるか、そこが一番のポイントだということをよく聞く。宍粟の魅力を堪能しにこられた方は、交流を含めた楽しさを感じていただければ、二度とお越しいただけない。市には総合的な観光基本計画条例もあるが、どのように選ばれるか、ターゲットに選ん</p> |

| 発言者 | 議題・発言内容   |
|-----|---|
| 委員長 | <p>でいただけるか、今後どのように情報を発信していくのが、これからの観光振興戦略については大切だと考えている。</p> <p>しっかりニーズを把握して選ばれる戦略をつくっていただきたい。</p> <p>続いて、前回の協議で持ち帰りとなっていた項目について、事務局から説明をお願いします。</p>  |
| 事務局 | <p>(前回の持ち越し案件の説明：資料②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住定住者への情報提供について</li> <li>・地域おこし協力隊について</li> <li>・安心見守りコール通報システムについて</li> </ul>  |
| 委員長 | <p>緊急通報システムの事業については、社協などと情報の共有が図られるのか、社協でも独自の支援サービスをやっているところに情報をつなぐことが可能なのかと質問があったと思うが。</p>   |
| 事務局 | <p>緊急通報装置の設置については独居高齢者の支援であり、サポートセンターからの情報については、地域包括支援センターや社協を含めたサービス事業者との情報共有も行っていることを確認した。</p>  |
| 委員長 | <p>資料①の3ページのところに記載があるが、宍粟市の地域の特色から考え「木育の視点」を強く打ち出したところが総合計画の特色である。子育てガイドブックや、移住定住のポータルサイトで、木育についてはどうアピールされているのか。</p>  |
| 事務局 | <p>木育の視点では、全ての市の事業に対して「木育」というフィルターを通して事業を行っていくこととしている。</p> <p>現在、子育てガイドブックや、委員長からお聞きいただいたところについては、なかなか木育の視点でこうだということまでは、具現化出来ない。木育の視点というのは、幼少期からおもちゃを持ったり、気づいたり匂ったりということ、子どもたちの心に残り、将来大人になっても宍粟市を発想できるようなキーワードになるものと思っている。子育てガイドブックには掲載していないが、来年からは木育玩具の誕生記念品のおもちゃを増やしたり、北部の子育て支援センターに木育玩具を充実した木育広場を開設したり、来年度に向けて整備することでハード面を進める予定である。</p> <p>ソフト的には、その施設等をいかに周知して市民の皆さん、特に子育て環境にある親御さん方に周知するかが大切だと考えている。デジタル世代</p> |

| 発言者  | 議題・発言内容   |
|------|---|
|      | <p>のお父さんやお母さん方に対しては、すでに導入している「宍粟子育て応援アプリすくすく」を活用し、ターゲットを絞って周知していきたい。一度施設を利用されれば、それがまた口コミで広げていただけるような形を考えている。</p> <p>試行として、現在一宮市民協働センターにおいて木育の玩具をかなり充実させ、施設を利用させていただいているが、土日には口コミで来ていただいた方が、自分たちのSNSで発信してくれている。利用者からの体験発信によりつながりが広がり、土日に雨が降って遊ぶところがない時など、多くの方に利用いただいている。市内のどこでも子どもが木育環境のなかで大きく育っていける取組みを、来年度以降も進めることで現在調整をしている。</p>  |
| 事務局  | 引き続き、資料①-2、資料③について説明  |
| 委員長  | <p>説明についてご意見、ご質問はないか。</p> <p>今日の意見も含めて、資料①-2はもう少し肉づけができるのではないか。次回が最後の委員会になるので、そこまでに検討いただきたい。</p>  |
| 事務局  | <p>■その他</p> <p>第4回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会の開催日について<br/>日時：令和6年1月18日（木）14時00分～<br/>場所：宍粟市役所本庁舎401・402・403会議室及びリモート。</p>  |
| 副委員長 | <p>■閉会</p> <p>本日の議論では、【産み育てる】と【まちの魅力】がメインのテーマであり、DXをどうプラスしていくかの内容であった。</p> <p>【産み育てる】の場合は、ファミリーサポートセンター制度を軸に、DXで解決できることと制度を変えていかなければならないこと、DXで解決できるところを見誤るとDXの導入が目的になってしまう。対面での取組みを行うことも非常に重要なカテゴリーだと思うので、十分注意しながら組み込んでいくことが必要ではないかと感じた。</p> <p>【まちの魅力】では、皆さんの意見にあったが、情報を見てもらう、選ばれる情報発信が一番大きなテーマではないかと感じた。これが非常に難しいところで、いかに効率的に取り組んでいくかが課題になると思われる。</p> <p>次回の委員会は、全体的な議論に移ると思うので、そういったところを重点的に協議いただければと思う。</p> |